

防水ジャーナル

ROOFING / SIDING / INSULATION / RENEWAL

2024

2

No.627

特集2 特集1

表面含浸材

高耐久防水



THE BOUSUI JOURNAL

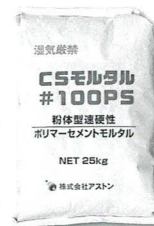
NNTD農業農村整備民間技術情報データベース

Nougyo-Nousonseibi Technical-information Database

技 術 の 名 称		CSモルタル工法(水路補修改修工法)		
登 録 番 号 (登 録 年 月)		1022 (2012年11月)	問 合 せ 先	水路補修改修工法研究会 事務局 〒700-0075 岡山県岡山市北区矢坂本町14-16 TEL 086-255-1511 FAX 086-251-3270 https://www.i-care.gr.jp
分 野	大分類		中分類	小分類
	主	09_施設の長寿命化対策：コンクリート補修工法	01_表面処理工法	01_表面被覆工法(無機系)
	副 1	09_施設の長寿命化対策：コンクリート補修工法	01_表面処理工法	05_表面含浸工法
	副 2	09_施設の長寿命化対策：コンクリート補修工法	03_断面修復工法	01_左官工法
	副 3	11_施設の長寿命化対策：パイプライン補修工法	02_ひび割れ補修工法	02_ひび割れ充填工法
技 術 の 概 要		表面含浸工法(CSクリアー)と無機系被覆工法(CSモルタル)の複合工法(表面改質複合工法)による補修で、新設時の美観と耐久性にまで機能を回復し、既設水路を長寿命化(延命化)させ、ライフサイクルコストを低減する。		
開 発 の 趣 旨・目 的		水路補修では、いくら表面を優れた材料で補修しても、劣化部を除去した後の下地が健全で強固でなければ長持ちしない。 そのため、けい酸塩系表面含浸材により下地コンクリートを化学的に改質した後に、ポリマーセメントモルタルを薄塗することで、既設構造物の健全な部分を生かし、景観および寸法などの形状をなるべく変更せずに脆弱な部分の機能を回復させることを目的として開発した。 水路補修工事を25年以上経験し、施設管理者や耕作者の意見を取り入れる中で完成した。		
適 用 範 囲 (適 用 条 件)		・コンクリート構造物(開水路・暗渠・水槽など)であること ・下地コンクリートが湿潤状態でも施工可能 ・左官作業が可能な空間が必要 ・アルカリ骨材反応(ASR)および化学的腐食による劣化箇所の場合、適用不可		
特 徴		・既設水路の耐久性を向上させる ・補修時に既設水路断面の減少を最小限に留める ・既設水路表層部の粗度を低減する ・ひび割れ補修効果に優れ、高い止水性を確保する ・湿潤状態でも施工可能なため、工期短縮、コスト縮減を実現 ・無機質系材料を使用しているため、環境への負荷を低減できる		



CSクリアー
20kg/ポリ缶



CSモルタル
25kg/袋